

小田貫湿原・田貫湖観察会実施報告書

- 1.実施日時: 令和7年7月26日(土) 9:30~14:00
- 2.実施場所: 小田貫湿原・田貫湖 (富士宮市猪之頭)
- 3.参加インストラクター: 佐野文彦
- 4.参加者: 秦野ネイチャーウォッチングクラブ会員7人
- 5.実施状況

秦野ネイチャーウォッチングクラブから会へ小田貫湿原・田貫湖観察会の依頼があった。参加者は7名で少人数だったので、地元富士宮在住の私(佐野)が一人で担当することになった。事前に現地を確認しながら、関連資料を収集。田貫湖ふれあい塾から頂いた小田貫湿原に咲く草花のパンフレットを主に、小田貫湿原、田貫湖の成り立ち、下見で撮影した草花、樹木、トンボの写真を一覧にし、一冊のクリアブックに納め、当日の配布資料とした。

小田貫湿原では、チダケサシ、クサレダマ、コオニユリ、ヌマトラノオ、アギナシ、コケオトギリ、チゴザサが開花期を迎えていた。橙色のコオニユリは湿原に映え、カメラを向けたくなる姿を見せていた。オニユリはよく目にするが、コオニユリはあまり見たことがないという方もいた。ミズチドリも数は少なかったが観察することができた。線香花火のように咲くチゴザサは初めて目にする方が多かった。小さいながらも所々に桃色を帯びた群落が見られ、遠くからでも確認することができた。散在するアブラガヤの穂はまだ青かった。湿原を代表するアサマフ



ウロやサワギキョウの開花はまだまだ先と思われた。また池の淵ではモウセンゴケを観察することができた。木道から双眼鏡で見つけた場所を覚えておくことで、肉眼でも観ることができた。樹木ではリョウブ、ノリウツギが開花していた。特に湿原周辺にはリョウブが多く、開花最盛期であっ

た。また湿原の縁ではクマヤナギが遠くからでも確認できる程、沢山の赤い実を付けていた。昆虫ではショウジョウトンボ、キイトンボ、ハラビロトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウチワヤンマなどのトンボ類が多かった。またキイトンボが連結産卵する様子は、随所で観察することができた。蝶はナガサキアゲハ、ミヤマ



カラスアゲハ、クロアゲハ、アカボシゴマダラを観ることができた。両生類ではヤマアカガエルの幼体やモリアオガエルの卵塊を確認することができた。モリアオガエルの卵を見たことがない人が多かったので、紫外線、メラニン色素、泡の関係を解説し、卵の色は黒ではなく白っぽいことを知ってもらった。野鳥はヒノキの頂上で囀っているホオジロを双眼鏡で観察し、小田貫湿原での観察を終了した。昼食は田貫湖を予定していたが、湿原の東屋で少し早めのお昼とした。

午後のコースは小田貫湿原から田貫湖ふれあい塾まで湖畔沿いのコースとした。サンショウ、イヌザンショウ、アブラチャン、ゴズイ、クサギ、ウリハダカエデ、ミズキ、クロモジ、コクサギ、コアジサイ、ノブドウ、センニンソウ、コシアキトンボ、ベニカミキリを観察した。コアジサイは湖畔西側の遊歩道に沿いの石垣の上に数十mに亘って群生していた。「開花の頃はきれいだろう



ね。観てみたいね〜。」といった声が聞かれた。コアジサイの付近には数えきれない程のヤゴのぬけ殻があった。ヤゴにとって池からの距離はかなりある。何故、この場所を選んだのかを皆で考えた。この場所が羽化するのに安全だからということで、考えが一致した。

休暇村に近い湿性植物保護区には、40年程前には氷河期の遺残植物と言われているミツガシワが自生していたことや、この付近ではアズマヒキガエルが繁殖期になると集結しカエル合戦を観ることができることなども紹介した。最後にテラスで記念写真を撮って観察会を終了した。ゴールの田貫湖ふれあい塾には予定通り14時に到着す

ることができた。小田貫湿原を
2時間、田貫湖畔を2時間かけ
ての観察会であったが、草花や
昆虫、野鳥に至るまで色々な生
き物を観察することができた。
十分満足していただけたのでは
ないかと思う。（佐野 記）

